

イグルー作製に込められた挑戦の意味

イグルー作製は3シーズン目を迎えており、今年は試行錯誤の末に確立した方法によって本格的なイグルーが完成しつつあります。まず、450mmx320mmx250mmのしっかりとした雪の直方体ブロック(写真1)を作り、それを円形に積み上げて行くと(写真2)、ドーム状の構造ができあがります。



写真1 雪のブロック。プラスチックの箱に一杯雪を入れ固めて行きます。一つのイグルーあたり100個ほどが必要となるサイズで設計しています。

今回は、さらに2つのイグルーを連結するツインイグルーの構築を進めています(写真3)。

これらの作業は重機を使わない手作業であるため、多大な時間と労力が必要となります。1月11日からの3連休を皮切りに、週末や夜間を利用して黙々と作業が続けられています。看護学科教員の坂井聖康先生を中心に、2名の看護学科の先生がサポートする形で進められており、完成が待ち遠しい限りです。



写真2 イグルーの土台作り。雪のブロックを円形に積み上げてドーム状に構築して行くのです。昨年度は暖かい日にイグルーの天井が崩れ落ちてきましたが、今年度は天井の作製に一工夫入れています。

イグルー作製作業を一人で黙々と継続する坂井先生の姿には、ある種の感動を覚えます。特に若い

世代の皆さんには、この姿勢から学んでほしいことがあります。それは、「人知れずコツコツと打ち込む姿勢こそが何かをなし得る上には必須のこと」であり、「そのような働きかけを継続することこそが自立した社会人として真に尊い姿勢だ」ということです。

私達はメジャーリーグで大谷選手が華々しい活躍をする姿を何度となくTVで見てきましたし、その度に大きな感動を覚えてきました。このような活躍する選手たちは、例外なく、人知れず懸命な努力を重ねています。大谷選手は、誰よりも才能があるにもかかわらず、誰よりも懸命に努力を続けているのです。

たとえ、超一流選手のような才能に恵まれていなくても、もし彼らが行っているような努力を重ねてみれば、私たちだって多くのことを実現できる可能性に気がつくことでしょう。年齢を重ねるにつれこれまでの人生を振り返ると、「コツコツと努力を重ねていた時期にそれなりの成長を遂げた」と、私自身の人生にも小さな成功体験を実感しています。国家試験の受験勉強に励む学生の皆さんには、イグルー作製をしている坂井先生の後ろ姿に努力の尊さと継続の力を感じ取って下さい。

そう考えると、イグルー作製の過程は、単なる雪の家づくりではありません。それは忍耐力、創造性、そして目標に向かって着実に進む力を養う機会でもあります。このような経験は、将来の看護師としての仕事にも必ず生きてくるでしょう。

皆さんも、今の努力が将来の自分を形作ることを忘れないでください。国家試験の勉強や日々の実習など、今は大変かもしれませんが。

しかし、この努力をしている今の経験こそが、皆さんを優れた医療従事者へと成長させる礎となるのです。そして、自分自身の目標に向かって、長い人生を一步一步着実に前進して行って下さい。

皆さんの努力は必ず報われ、素晴らしい未来につながっていくはずです。



写真3 イグルー作製に黙々とはいげむ坂井先生。この写真はツインドーム様のイグルーのつなぎ目を構築しているところであり、ここを通路として人が移動できるようにして行く計画です。

文責 林要喜知